

 シラバス参照／授業情報参照

## 授業情報／Course information

[戻る](#)

### ●授業基本情報

科目名／Course title	国際開発協力論：「開発」とは何か III／International Development Cooperation : What is ""Development"" ? III		
担当教員／Instructor	宮田 春夫		
対象学年／Eligible grade	1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6	開講番号／Registration Code	180G3240
講義室／Classroom	総合教育研究棟D-307(国際センター第2教室)	開講学期／Semester	2018年度／Academic Year 第1,2ターム／the first and second term
曜日・時限／Class period	水/Wed 1限	単位数／Credits	2
授業形態／Type of class	講義	科目区分／Category	新潟大学個性化科目 自由主題／Niigata University Original Subjects Other Themes
副専攻／Minor	副専攻「平和学」	定員／Capacity	20
分野／Academic Field	75：新潟大学個性化科目 35：政治学	水準／Academic Standard	05：全学学生受入可・発展内容科目大学院接続水準
抽選方式	手動		

### ●授業概要情報

更新日／Date of renewal	2017/12/27
対象学部等 ／Eligible Faculty	全学部(主として3-4年生)
聴講指定等 ／Designated Students	開発途上国の開発について強い関心のある学生に限ります。 副専攻「平和学」指定科目です。履修者数が合理的な授業執行の上限を超えた場合には、副専攻「平和学」修得希望者を優先します。 アマルティア・センの開発論の発展形として「正義」を考えるものなので、「国際開発協力論：「開発」とは何か II」を履修するかまたはAmartya San: Development as Freedomを読むかしていることが望られます。
科目の概要 ／Course Outline	Amartya Senが、2009年の"The Idea of Justice"で、彼の正義論をまとめています。「What moves us ... is ... that there are clearly remediable injustices around us which we want to eliminate.」との前書きの言葉が彼の正義論を象徴しています。人の多様な状況から、理想論で一致するのは難しい。正義論は、そのような理想を論じるのではなく、現実にある見過ごせない不正義(人間としての尊厳が確保されていないような生活など)の除去等を目指すべきであること、ムラ社会の考え方(parochial)でなく、他の世界の人たちからも広く学び、また、他の世界の人たちのこととも考えること、制度があればそれで十分なのではなく、それが活用されていること、また、制度で捉えられていない規範を含めて考えるべきであること等々、実際にある見過ごせない不正義をなくすことを目指した正義論を包括的に展開しています。 "The Idea of Justice"を読んで、この、開発論に根差した正義論を学びます。 なお、第III章と第IV章は、「「開発」とは何かII」と相当程度重複する内容なので、主に第I章と第II章を読む予定です。
科目的ねらい ／Course Objectives	Amartya Senは、"Development as Freedom"等において、「development」は幅広く捉えられるものであって、収入の増加といったことではなく、幅広く1人1人の不自由(unfreedoms)を小さくすることであるとし、同時に、不自由を小さくすること(自由の拡大)は「development」の目標であるばかりでなく、その実現の手段でもあるとしています。更には、人々は、自分の生活や社会を良くする行動主体(agent)であり、そのためには、1人1人がその人なりの理由により価値があると考える生活を送る力(capabilities to lead the kind of life that the person has reason to value)を向上させることが重要であるとしています。また、みんなで議論して共有の規範や価値観を作っていく行動の責任を負っていることも強調しています。 1999年の"Development as Freedom"の中で、彼は正義との関係についてもかなりのページを割いて論じていますが、それでもなお正義についての議論はわかりにくくなっていました。2009年の"The Idea of Justice"では、1人1人が求めるものは異なるという事実認識、1人1人は生活を良くするために行動する主体であるという事実認識、みんなで議論していくことの重要性、更には、2005年の"Identity and Violence: The Illusion of Destiny"で明らかにした、「民族」、宗教、国籍、職業、趣味、卒業校、等々の多様なアイデンティティーが同一個人の中にいくつもある事実と、そのような多様なアイデンティティーによる多様なネットワークの重要性等に着目し、そして、何よりも、見過ごせない不正義を無くすことに力を入れるべきだし、それが正義であることには誰もが納得し、かつ、そうしようと考えるという事実に基づき、「development」のための行動は、全ての人が正義と認識するものであり、実行していかなければならないとしています。このような議論により、不正義を無くすという基本認識を、開発途上国「開発」に関心を持つ者として共有して行きたいと考えます。
学習の到達目標 ／Specific Learning Objectives	上記のような「development」とは何かの認識に基づいた正義の認識と、見過ごせない不正義を無くすための行動へのコミットメントを再確認するとともに、それぞれの関心分野に関わる諸課題について、自分なりの視点で取組を考えることができます。
登録のための条件(注意) ／Prerequisites	開発途上国「開発」の問題について関心のあることが不可欠です。 教科書が英語であるので、忍耐強く英語を読む力も必要です。英語を読むことに戸惑う学生がいますが、手段として使うために高校までに英語を習ってきたのです。大学に入り、それを実際に手段として使う方が来たと考えるべきです。実際に手段として使うことにより、英語を自分の専門等の手段として使う力も向上します。これは、グローバル化した社会に出た時に直ちに必要になる力もあります。

<b>学習方法・学習上の注意 ／Study Advice</b> <b>成績評価の方法と基準 ／Grading Criteria</b>	<p>アマルティア・センの開発論の発展形として「正義」を考えるものなので、「国際開発協力論：「開発」とは何か II」を履修するかまたはAmartya Sen "Development as Freedom"を読むかしていることが強く望まれます。</p> <p>なお、開発途上国の「開発」に強い関心のある学生だけのための授業であり、「開発」に関心の無い学生が英語の学習のために履修することは、この授業の内容に関心を持って履修する学生に対し迷惑となるので、お断りします。</p> <p>なお、教員の定年退職のため、この科目的開講は2018年度が最後です。</p>
<b>使用テキスト ／Textbooks</b>	<p>開発途上国の「開発」に強い関心のある学生のための授業です。その関心に動機付けられて、積極的に読むこと、加えて、他の学生と協力・分担してそれをまとめる積極的な参加が必要です。</p>
<b>関連リンク ／URL of syllabus or other information</b>	<p>授業への積極的な態度により評価する予定です。但し、履修者数が多くなった場合には、ペーパー若しくはメモの提出またはテストにより、センの正義論のポイントの理解を評価します。</p>
	<p>Amartya Sen, 2009 "The Idea of Justice" 496 pp. Belknap (2017年12月現在、amazon.co.jpで、2010年のPenguinのペーパーバック版約2,000円。英国のネット書店では航空便送料込み14ドル程度。Belknap版のペーパーバックは無くなり、ハードカバーだけになっているようです。(どの版を使ってもかまいません。)</p> <p>教員がまとめて購入する等の措置も講じることもできます。まとめての購入等を希望する学生は、宮田まで、早めに相談して下さい。</p>
<b>参考文献 ／References</b>	<p>授業内容や追加情報</p> <p>&lt;主要参考図書&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Amartya Sen, "Development as Freedom", 366 pp., Anchor Books, 1999 (2001年に、従来のAnchor Books版に加え、Oxford University版も出ています。内容は全く同一です。) 彼の開発論をまとめたもの。なお、和訳するのが困難な表現が多く、和訳本は混乱を生じさせているので、お勧めしません。</li> <li>Amartya Sen, 2017 "Collective Choice and Social Welfare" Expanded Edition, 602 pp., Penguin Books, ISBN: 978-0-141-98250-2. Arrowの不可能性の定理により社会選択論の研究は終わったと多くの人が考えた中、センは、アローの扱ったものは選挙等による選択方法に限定されたものであり、社会的選択にはそれ以外に多様な課題があることを見抜き、1970年に元の版を出した。2017年版は、その元のテキストにその後の研究の成果を追加したもの。この授業の教科書は、センの社会的選択理論をかなり使っているので、その社会的選択理論についてよりよく理解したい時に参照したらよいと思います。(日本語での社会的選択理論の本としては、末尾に記載の佐伯胖をお勧めします。日本で近年に出ていた社会的選択理論の新書等は、アローの不可能性の定理の範囲にとどまっているように思われますが、その本は、幅広い視点で論じています。)</li> <li>Amartya Sen, "Identity and Violence: The Illusion of Destiny" 215 pp. Norton, 2005(hard cover)/2006(paper back). Penguin Books版もあります。いずれも内容は同じです。2011年には和訳も出ました。) 「民族」、宗教、国籍、職業、趣味、卒業校、等々の多様なアイデンティティーが同一個人の中にいくつもある事実を指摘し、また、それを個人的、社会的その他の理由によりその時々で選択している事実を指摘しています。つまり、特定の意図を持って特定のアイデンティティーだけに縛ろうとする動きに惑わされることなく、我々は、色々なアイデンティティーを使い分け、多様なアイデンティティーの多様なネットワークを更に強化することにより、生活をより豊かにし、また、紛争を避けるべきであり、また、それができるのです。宗教によるまとまりを「文明」とし、その上での「文明の対立」といった議論は、「宗教」という一つだけのアイデンティティーで無理矢理世界の人々を分断するという、根本的誤りに基づくものです。この点は、どうして国境を越えて世界の色々な人が苦しんでいる不正義を無くすために行動しなければならないかの正義論に使われています。</li> <li>John Rawls, "A Theory of Justice" Revised Edition, 538 pp. Harvard University Press/Belknap, 1971 長く評価を受けてきたロールズの正義論であるが、センは、ロールズは究極の正義を論じていて、それは1人1人の置かれた状況、望むものの違いから一致することがないし、また、特定の集団(特に国家)の中だけでしか通用しない社会契約論に依拠していることにより多様なアイデンティティーを許容していないと批判し、また、手段・手続きを中心に論じ、結果やプロセス(みんなで議論して共有の価値観等を明らかにし、規範を形成していくこと等)も含めて論じていないことから不十分であると批判しています。和訳版は非常に難解な言葉になってしまっていますが、英語原文は平易です。</li> <li>若松良樹『センの正義論:効用と権利の間』306 pp. 頭草書房、2003年。センの正義論をよく研究し、しかも2003年という早い時期に出された専門書です。</li> <li>後藤玲子『正義の経済哲学: ロールズとセン』466 pp. 東洋経済新報社、2002年。センの正義論とロールズ他の正義論の違い、共通性、補完性等について細かく分析した専門性の高い書籍です。</li> <li>絵所秀紀「後期アマルティア・センの開発思想」『経済志林』69巻2号、pp. 155-192,法政大学経済学会、2001年(<a href="http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/1433/1/69-2esho.pdf">http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/1433/1/69-2esho.pdf</a>)</li> <li>佐伯胖『「決め方」の論理—社会的決定理論への招待』東京大学出版会、1980年。センが『The Idea of Justice』で触れている社会的選択理論について、単純な手続き面からの民主的決定方式にとどまらず、社会と個人との関係について包括的に論じ、その中ではセンの議論、ロールズの理論も論じ、「倫理社会の決定理論」を目指す論考を行っている。センの正義論を更によく理解するために大いに役立つ。古い本だが、社会決定論、社会選択論でこれを超える書籍は日本では出でていない。</li> </ul>
<b>キーワード ／Keywords</b>	<p>正義論、セン、開発、自由、不自由、freedom, unfreedom, justice, development, Sen</p>
<b>備考 ／Remarks</b>	<p>副専攻「平和学」指定科目。 文系科目です。 教員の定年退職のため、この科目的開講は2018年度が最後です。</p>

#### ●授業計画詳細情報

内容 ／Content	準備学習 ／Preparing learning	備考 ／Notes
Amartya Senの『The Idea of Justice』を使い、彼の「開発」論に立った正義論について学びます。その主な内容として次のようなものがあります。	教科書の各章の冒頭にその章の内容の紹介等があるので、そこを予め読んでおくと、章の内容を理解しやすくなるかと思います。	

- |  |  |  |
|--|--|--|
| (1)ロールズの理想論の誤り<br>(2)1人1人が異なること<br>(3)手段だけの視点、結果だけの視点、手続き・しくみだけの視点の不十分さ<br>(4)みんなで議論することの重要性 |  |  |
|--|--|--|